

## はじめに

はじめまして！ 私は中学生の娘と息子を持つママです。

日本人の両親のもとに生まれたわが子たちをバイリンガルに育てたくて、英語環境を作るためにさまざまな試みをしてきました。

そして、彼らが幼児だったころインターナショナルスクールを設立し、開校から6年間、そこに通わせました。

その後子どもたちは、それぞれ小学4年生と小学5年生で日本の小学校に転入しました。小学6年生のときに英検準1級を取得し、一般英語入試を経て、国際色豊かな中学校に入学しました。日本の教育システムの中、英語に関しては帰国生と一緒にネイティブレベルの授業を受けています。

語彙力などは英語圏に長く住んでいた帰国生には及びませんが、2人は**当時私が漠然と考えていた「バイリンガル」**に育ったと思います。そして、育てていくうちにより**鮮明にイメージした「バイリンガル」**にも育ってくれていると感じます。

ちなみに私自身にも留学経験があり、仕事でも英語教育に携わってきたため、英語にはある程度自信があるほうですが、とりわけ発音に関しては到底子どもたちにはかないません。

さて、子育て中にたくさんの新しい出会いがあり、親子でさまざまな経験をしていく中で、「バイリンガル」ばかりにこだわってきた自分に疑問が

湧いてきました。

バイリンガルって実のところどんな人？

高いレベルの英語力をつけることが子どもたちにとって一番大切なこと？

そもそも、子どもたちにはどんな人になってほしいんだっけ？

2人の成長を見ていて、もっとここを伸ばすための環境作りをしてあげていけば、と悔やんでいる分野もあります。英語の環境で学んだという点は2人とも同じですが、英語以外では、上の子には熱を入れて取り組ませてきたけれど、下の子には（もっと関わらせてあげていたら……）と思っていることがあるのです。そのひとつに「ドラマ教育」があるのですが、これについては本書後半で触れていきたいと思います。

ITが急速に発達し、また目まぐるしいグローバル化に対応するため、日本の教育も大きく変わろうとしています。

複雑な思考を必要とする仕事も人工知能に取って代われ、予測がつかない未来が到来するといわれる**激動の時代**を生きていく子どもたち。**彼らに必須のスキルとはなんなのでしょう？**

本書には、英語子育てに奔走していた私が出した私なりの答え、そして、わが子に英語教育をと考えているけれど何をしたいかわからない、という方に知っていただきたいことなどを書き留めました。

専門家ではないため、学術的に研究した結果をもって証明できるわけではありませんが、私自身の子どもは**何をした結果、そして何をしなかった**

**結果どう育っているのか**、さらに国内と海外で出会ったバイリンガル子育て家庭のさまざまなケースも紹介し、リアルな体験談が少しでもママ・パパの英語子育てのヒントにつながればいいなと思っています。